

国道10号 橋台・橋脚洗掘

鹿児島県始良市加治木町本町～錦江町において、8月7日からの大雨により、橋脚・橋台背面の洗掘が発生。現地状況の詳細な把握及び応急対策等の検討のため、TEC-FORCEアドバイザーを派遣し現地調査及び助言等をいただいた。

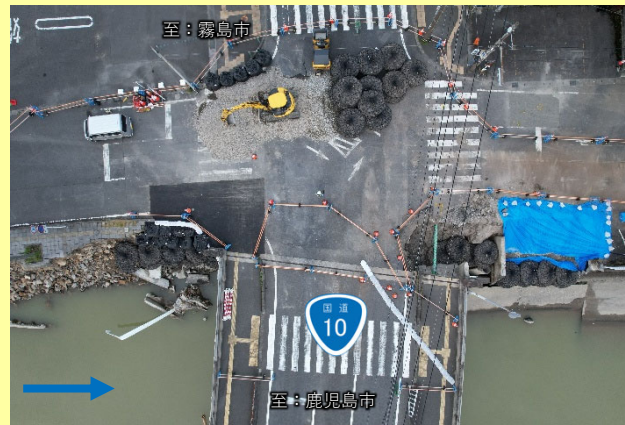
参加者:鹿児島大学 酒匂教授、^{さこう}審良准教授^{あきら}

●TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断(令和7年8月8, 9, 11日)

被災状況



応急復旧状況



現地確認



【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

【審良先生】

- ・応急復旧工法については問題ない。がれき撤去時に衝突・衝撃は懸念される。(特にA1)
- ・橋軸の基準値を降伏値から検討されているが、橋台と桁の遊間が2～5cmほど、現在は固定支承なので桁を押し形になると思うが、工事中のモニタリングは安全監視かと思うので、閾値をもう少し小さくとっても良いように思える。
- ・浸食については、橋台の底面まで損傷しており、構造上、杭のみで持っている。

【酒匂先生】

- ・鋼矢板を打ち込む際に根固めブロックが干渉しないかが気になる。
- ・メカニズムや応急復旧の基本的な考え方などに関して、特に異論はない。
- ・地盤の観点からは、擁壁、橋脚の下部について、空洞が入っている。今後の河川の水位変動次第によって、浸食が進む恐れがある。